

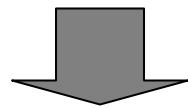
2. 自然公園における景観について

- 1) 自然公園の役割
- 2) 自然公園における景観管理の考え方
- 3) 景観影響に関する検討
 - (1) 身体的、視覚的特性
 - (2) 同化型景観調和
 - (3) 要素の複合

1) 自然公園の役割

< 自然公園法: 目的 >

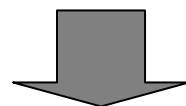
(この法律は、)すぐれた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図り、もって国民の保健、休養、及び教化に資することを目的とする。



* すぐれた自然の風景地を保護し、利用を増進することを国民より負託されている。

2) 自然公園における景観管理の立脚点

* 自然公園においては、「すぐれた自然の風景(地)」が主役である



* 自然風景への影響を最小限に止めることが基本であり、景観調和に関しても、「対比型」ではなく、「同化型」の調和問題として管理する

補：「主役」とは？ ： 「図」と「地」

* 風景・景観における「主役」とは「図」として認識されること。

< 「図」の性格 >

- ・ 図は形をもつが、地は形の印象を伴わない。
- ・ 共通の境目に生じる輪郭は図に帰属して知覚されるのに対し、地は図の背後にまで広がって感じられる。
- ・ 図は物の性質を有し、地は形状のない素材の性質をもって現れる。
- ・ 図は前面に、地はその後方にひっこんで見えがちである。
- ・ 図は一層印象的で、何らかの意味を担いがちであり、一層記憶に残りやすい。

3) 景観影響に関する検討

(1) 身体的、視覚的特性

- ・人間尺度、生理的側面からの検討
- ・立地場所による影響

(2) 同化型景観調和(単体)

- ・対象場との景観調和の検討
(対象場の性格によって検討は異なる)
- ・分析、評価、操作のための指標
大きさ、形状、色彩、テクスチャ 等

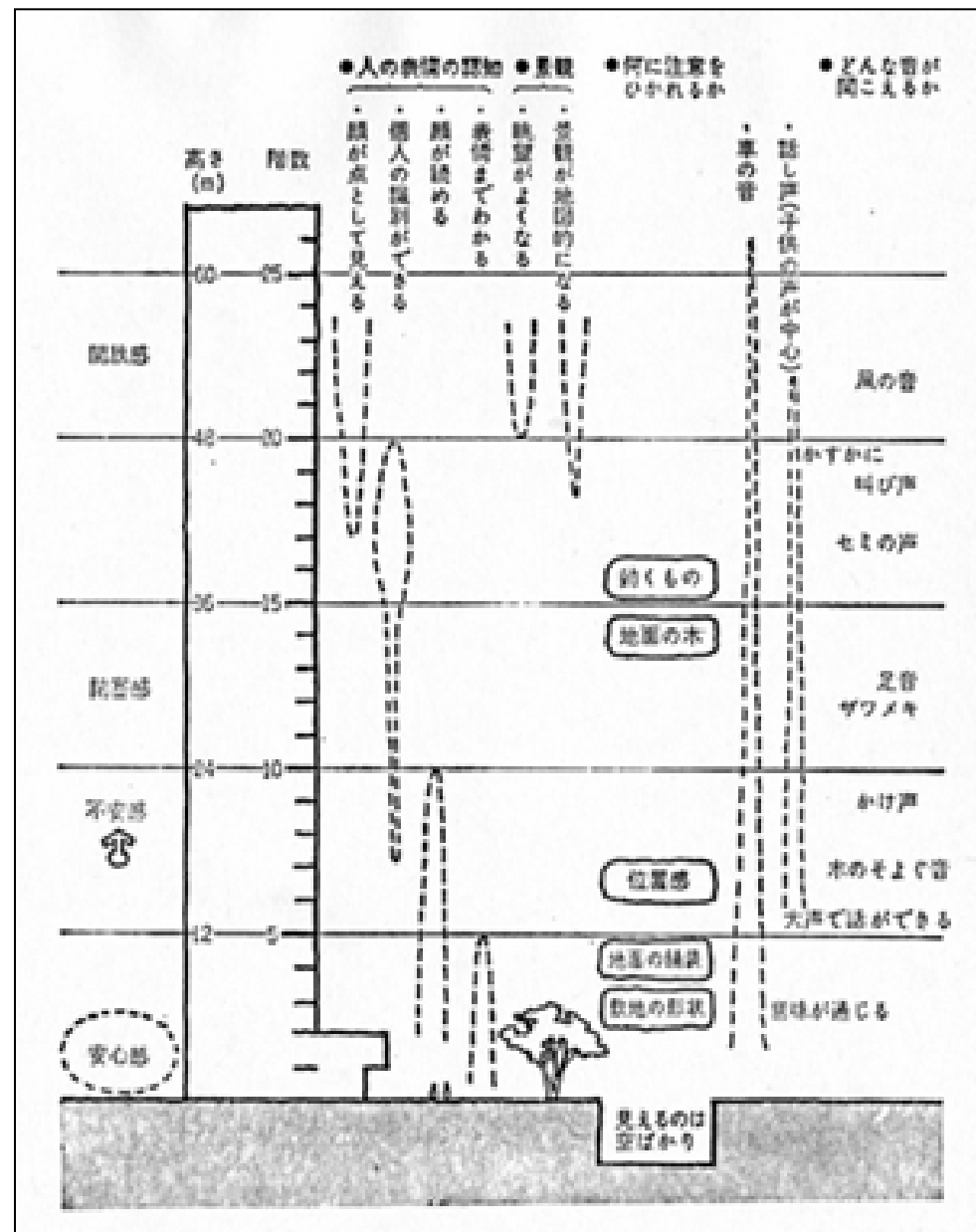
(3) 要素の複合

- ・要素が複合して現出する景観の影響検討

(1) 身体的、 視覚的特性 (人間尺度)

・高さに関しても、人間の身体的ものさしが景観の認識、評価に影響する。

戸沼幸市(1978)



(1) 身体的、視覚的特性(高さ)

- ・ 構造物単体の大きさによって受ける印象は大きく異なる。



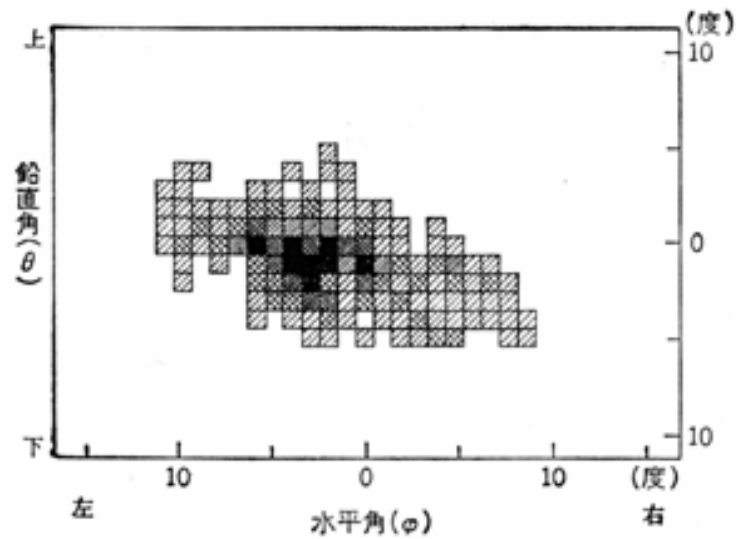
(1)身体的、視覚的特性(大きさ:見込角)

< 角度に関する知見の整理 >

- ・熟視覚:対象をはっきりと見ることのできる視覚
($1^{\circ} \sim 2^{\circ}$)
- ・頭部に対する眼球の相対的移動範囲
(水平角 20° , 垂直角 10°)
- ・静視野:視点が静止している場合に見える範囲
(左右各々 60° , 上 70° , 下 80°)

補: 視覚特性(注視点の分布)

- ・注視点の集中によって目立つ場所が決まる



注視点の分布(中村良夫)

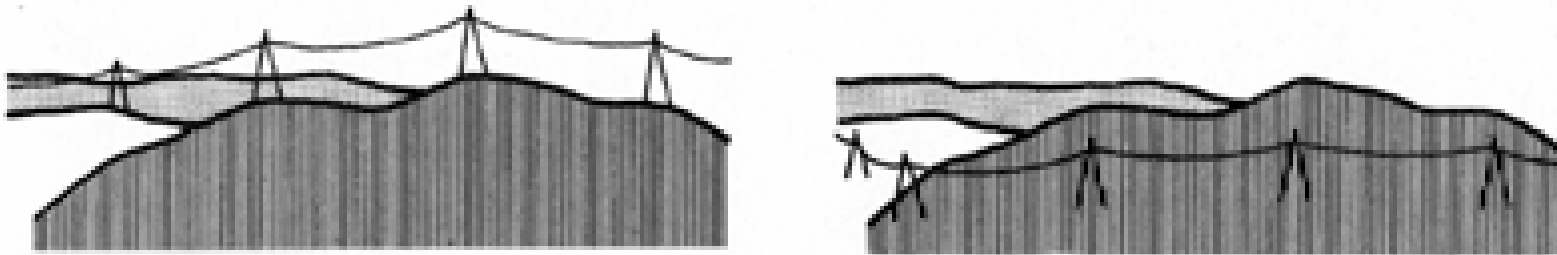


視対象に対する注視点の停留とその視線(Yarbus, 1967; 池田, 1988)

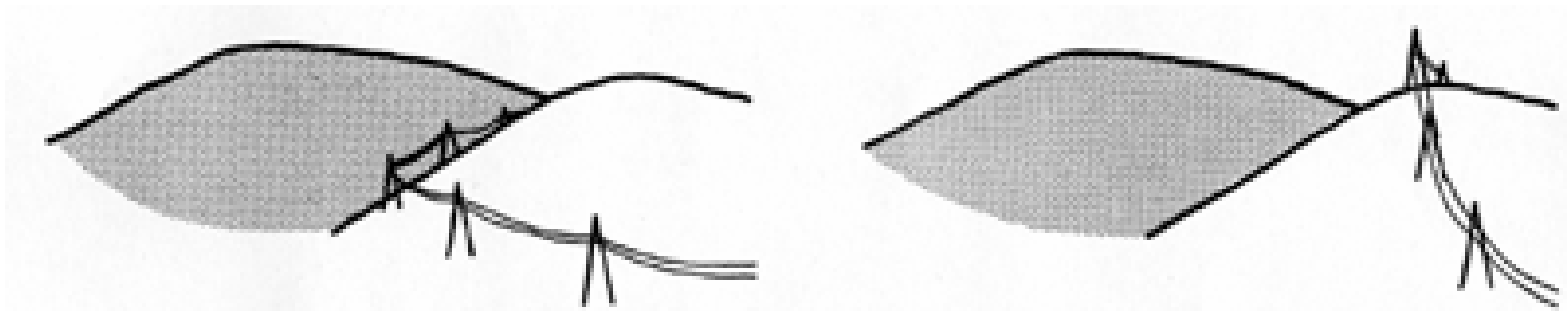
(1) 身体的、視覚的特性(立地)

< 地形面での影響の少ない立地 >

- ・スカイライン等目立つ場所への立地は影響が大きい



- ・地形のライン、流れに合わせた立地は影響が軽減される



(2) 同化型景観調和: 対象場の性格

* 「同化」を考えるうえでは、対象場としての自然景観の性質が問題になる



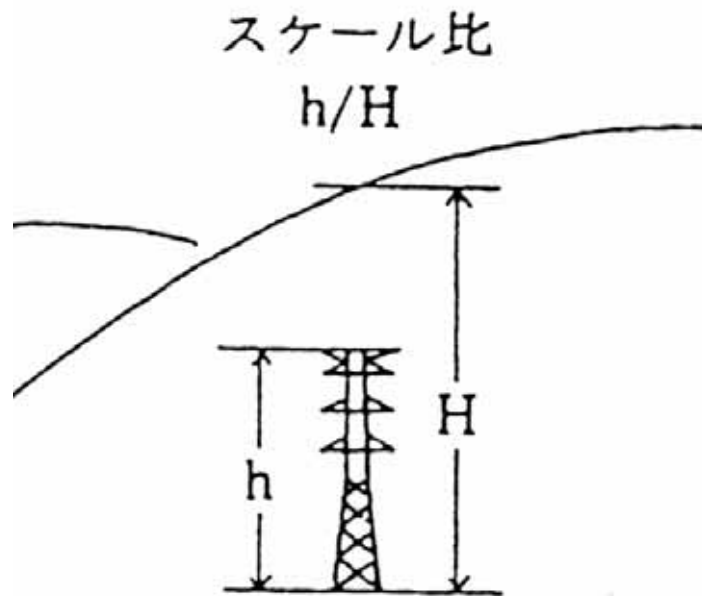
変化に富んだ地形への立地
(地形の有するスケール感への影響)



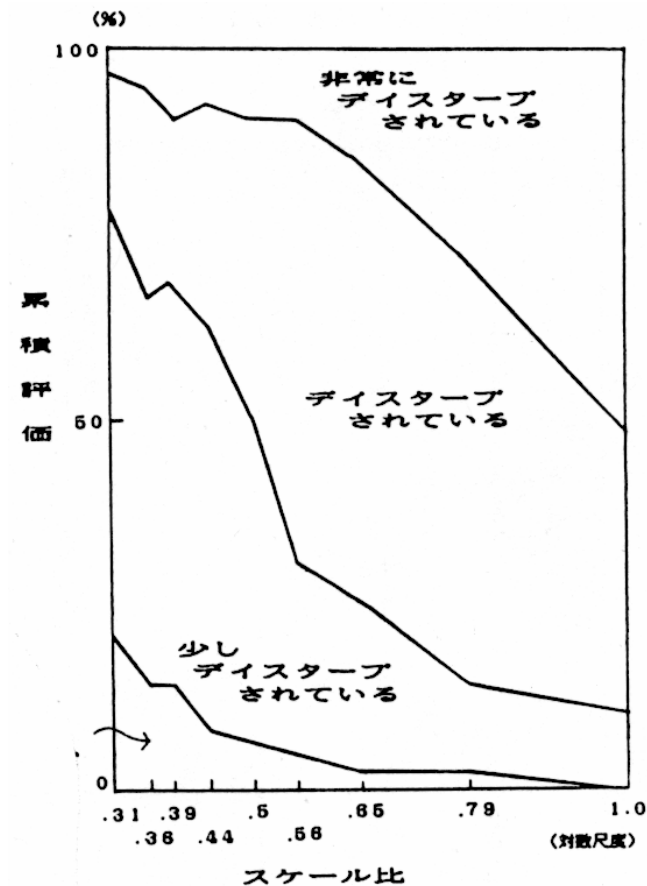
スケールの大きな地形への立地
(水平的な広がりへの影響)

(2) 同化型景観調和：検討指標(大きさ)

- 対象場のスケールによって、許容される主対象のスケールも異なるため、地域ごとに検討が必要である。



熊谷洋一ら(1982)

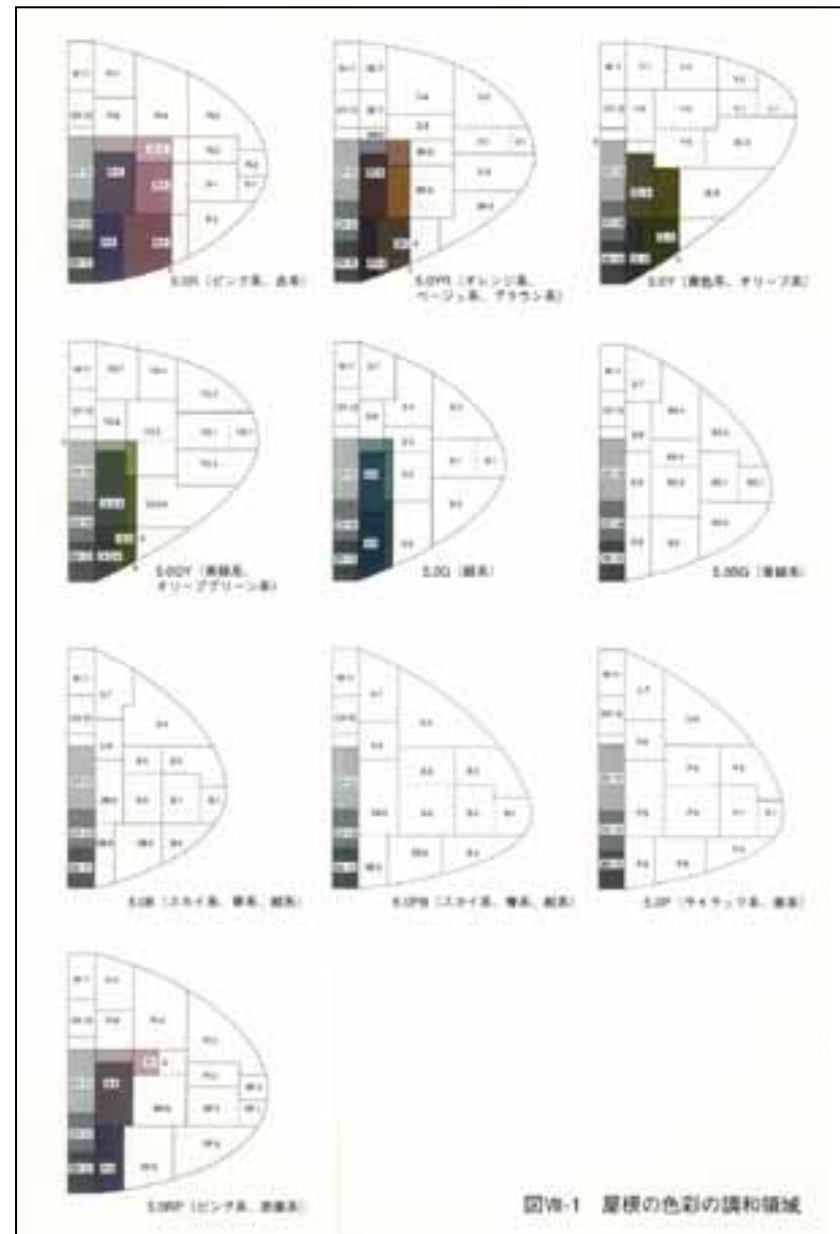


(2) 同化型景観調和:

検討指標(色彩)

- ・自然風景地における人工構造物の色彩調和に関しては、低明度、低彩度が原則である。(金属物は、+ 低輝度)

麻生恵(1995)



(3)要素の複合：複数(群として)の要素

- ・「量」「配置」によって印象は異なる



線状の配置



ランダム？配置